



学力特集号
文責 校長 針尾 泰久

学校教育目標
「豊かな人間性をそなえ、主体的で
確かな実践力をもつ 児童の育成」

3つの花を、大きくさかせましょう。



平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

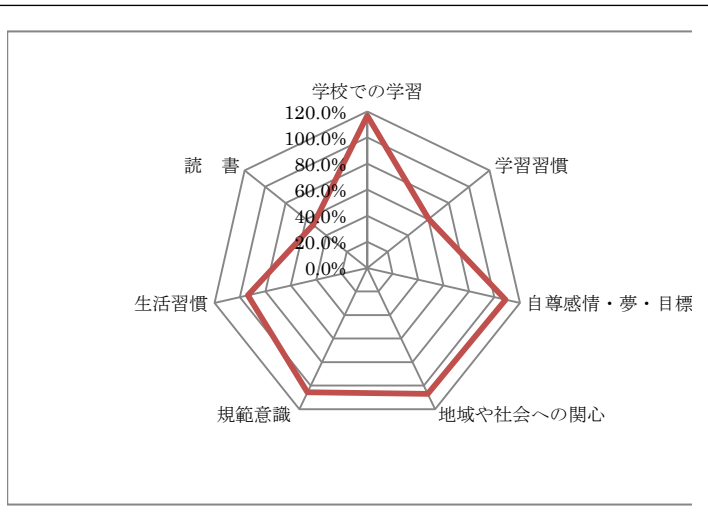
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語	全体的には全国平均正答率を上回っていた。「話すこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は全国平均正答率より上回っていた。しかし、「書くこと」「読むこと」の2領域については課題が残されている。	上回っている
算数	全体的には全国平均正答率を下回っていた。領域「量と測定」については、全国平均正答率とほぼ同程度であった。課題のある領域は、「数と計算」「図形」「数量関係」であった。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

○自尊感情はやや高い傾向にある。各クラスで行っているよいところ見付けの成果と考える。また、将来の夢や目標をもっている児童は多い傾向にある。昨年度から特化して取り組んでいるキャリア教育の成果と考える。

○学校のきまりなど規範意識にかかわる内容については、ほとんどの児童がしっかりと考えることができている。特別の教科道徳、特別活動などでの指導の成果と考える。

○読書については、家庭であまりしていないことが分かった。国語科学習の時間をはじめ、読書の楽しさをさらに伝えていくようにする。

○学校での学習は意欲的に取り組んでいるが、家庭学習の取り組みはやや課題があると考えます。家庭学習の取り組みについては、学校全体の一定の方向性を示す必要があると考えます。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

【教科に関する取組】

【学校での取組】

分かる授業の5つのポイントを生かした授業づくりを確実にを行います。特に「振り返り(分かったこと、できるようになったことなどを視点)」をした後に「まとめ」を行い、児童一人一人に思考力・判断力・表現力を育成します。

【家庭にお願いしたいこと】

今後、考え・判断・表現する力が重視されてきます。文章を書いたり、よい文章を読んだりする機会を増やしてください。

【家庭生活習慣等に関する取組】

【学校での取組】

朝の会、帰りの会などの場で早寝・早起き・朝ご飯の大切さを子どもたちに伝えていきます。

自尊感情や規範意識などについては、今後も伸ばせるように指導を継続していきます。

【家庭にお願いしたいこと】

家庭学習については、1学期末に全職員で話し合い作成した「家庭学習メニュー表」(低学年、中学年、高学年の3タイプ)を全家庭に配布しています。それを活用して家庭学習の習慣を身に付けさせてください。